

# 第10回例会報告

## — 講演 —

### CO<sub>2</sub>削減の「見える化」と中小企業の環境経営

今回は、中小企業の環境経営について、社団法人 産業環境管理協会 製品環境情報事業センター 所長の壁谷 武久 氏にお話をいただきました。

#### 講演内容

最近、企業の環境経営で注目されているのが、「商品の生産や設計、企画の段階から、環境負荷をかけないための方法を考える」ということです。今後、こういった設計段階での環境対策がより厳しく求められると思います。どういう材料を、どこから調達し、それにかかるエネルギー量はどれだけか…こう聞くと厄介に感じますが、実は、何十年と事業を継続している企業では、コストダウンや品質要求に応えるために、すでに徹底的に意識されている部分なのです。そう考えると、法律や規制をさほど窮屈に感じずにいられるはずです。

企業は国内外の環境法令を守ることはもちろん、こういった環境配慮製品づくりを意識し、対外的に数値として公表することが求められています。その製品の生涯としてのLCA(ライフサイクルアセスメント)を見せるのです。製品を世の中に流通させるまでにかかった環境負荷量、またその後の使われ方、廃棄やリサイクルのしやすさまでも考慮して、それをデータとして示すわけです。

2008年の「エコプロダクツ展」では、製品のライフサイクル全般で排出された温室効果ガスを、地球温暖化に与える影響の程度により、CO<sub>2</sub>に換算して表示する「カーボンフットプリント」という仕組みを展示しました。製品にCO<sub>2</sub>の数値を「計りマーク」に表現して、それをラベルとして貼るだけなのですが、「見える化」の好例として



大変好評を得ました。現在では、国が政策としてカーボンフットプリントを押し進めており、日用品雑貨や食品などの分野で徐々に広がりつつあります。

このカーボンフットプリントの利点は、企業の環境負荷削減に対する取り組みがアピールできること、また、消費者自身にも具体的に分かりやすく、環境負荷への理解が深まることです。企業自ら能動的に情報を開示して環境規制を克服することで、社会からの製品イメージや価値もあがり、ビジネスチャンスにもつながるでしょう。

これからの環境問題は、起きていないことが問題ではなく、今後は起きないようにするための対策が必要なのです。良いもの、より競争力のあるものを作ろうとすれば、必ず環境負荷の軽減に繋がります。そのためにまず、環境負荷を数値化し、世の中に見せるための体制づくりに着眼していただければと思います。

**壁谷 武久 氏** [社団法人 産業環境管理協会 製品環境情報事業センター 所長]

元経済産業省中部経済産業局資源エネルギー環境部環境・リサイクル課長

2007年4月 社団法人 産業環境管理協会入社

2009年4月 製品環境情報事業センター 所長(現職)

経済産業省中部経済産業局在職時から、通算8年程度環境政策に従事。

現在は、環境配慮設計(エコデザイン)に基づくエコプロダクツの普及に従事。主に、LCA手法を使った環境性能の「見える化」手法の研究、中小企業における「ものづくりエコデザイン」導入サポート、地方自治体等における環境施策立案への参画など地域を中心に活動。

講師  
プロフィール  
Lecturer Profile